

113-1 湧水と緑陰を求めて三宝寺・石神井池へ(未完)

武蔵野の緑に囲まれた三宝寺池・石神井池と夏でさえ涼しい緑陰の散歩道を歩く。

石神井の地名は、昔、村人が三宝寺池近くに池を掘ると青い霊石が出たので御神体として祠を建てて（石神の井）として祀ったことに由来する。

【道順】

西武池袋線大泉学園駅集合

大泉学園駅→牧野記念庭園→石神井学園前→石神井団地前→三宝寺池（殿塚・姫塚・野鳥の森・弁財天・中の島・石神井城跡）→氷川神社→道場寺→池淵史跡公園・旧内田家住宅→稲荷諏訪神社→石神井池→禅定寺→石神井火車站の碑→長命寺→練馬高野台駅

・牧野記念庭園

牧野記念庭園は、世界的に著名な植物学者である牧野富太郎博士（1862～1957）が、大正15年（1926年）から昭和32年（1957年）に死去するまでの約30年間住んだ居宅と庭の跡である。

園内には牧野博士発見し、妻の名をとって命名したスエコザサをはじめ、日本で最大級のセンダイヤ（サクラ）、ヘラノキ、チチブフジなど300種類以上の植物が成育している。記念館では博士が採集した植物標本や、著書、顕微鏡などを展示してるほか、博士の書齋が覆屋内に保存、公開されている。

・石神井公園・三宝寺池・石神井池

石神井公園は、武蔵野三大湧水地のひとつで石神井川の水源の三宝寺池とその湧水の水路をせき止めてできた石神井池の二つの池を中心とした公園で、1959年に都立公園として開園した。

三宝寺池は、かつて豊富な湧水で満たされていたが、都市化による環境の変化で湧水は見られなくなり、現在は地下水をくみ上げている。池の中の島には沼や沢などに生える植物の群落があり、国の天然記念物に指定されている。また、池の周辺には水辺観察園があり、反対側に石神井城跡がある。

石神井池ではポート遊びが楽しめるほか、周辺には野球場や野外ステージなどの施設がある。公園全体は武蔵野の自然がよく保存されており、散策と花や野鳥の観察も楽しい。園内には、石神井池、三宝寺池がある。井の頭池、善福寺池と並び、武蔵野三大湧水池として知られている。

・殿塚・姫塚

三宝寺池北にある遊歩道には、二つの塚が残されている。

太田道灌が石神井城を拠点とする豊島泰経を攻めたとき、泰経は家宝の金の鞍を白馬に乗せて跨ると三宝寺池にそのまま飛び込んで自害したという。その姿を見届けた二女の照姫もまた三宝寺池に入水した。池畔に残された塚の一つは、泰経を祀る「殿塚」、そしてもう一つは照姫を祀る「姫塚」である。

・道場寺

道場寺は、文中元年（北朝応安5年、1372年）、当時の石神井城主豊島景村の養子輝時（北条高時の孫）が、大覚禅師を招いて創建された。境内には文明9年（1477）太田道灌に滅ぼされた豊島氏最後の城主泰経や一族の墓と伝えられる石塔3基がある。

・池淵史跡公園・旧内田家住宅

この地は池淵遺跡があったところで、1956年以降調査が行われ、縄文・弥生時代の竪穴住居跡や中世の溝の跡などが発掘された。園内には竪穴住居跡をはじめ庚申塔や馬頭観音など江戸時代の石造物も置かれている。またふるさと文化館の屋外展示施設としてかつて中村三丁目にあった茅葺き住宅の「旧内田家住宅」が移築・復元されている。

・禅定寺

約600年前の南北朝時代に願行上人によって開かれたと伝えられている。本堂前には寛文13年（1673）の年号が刻まれたキリシタン灯笼（織部灯笼）があり、練馬区の有形文化財に指定されている。

・石神井火車站の碑（「石神井公園」駅 バスロータリー付近）

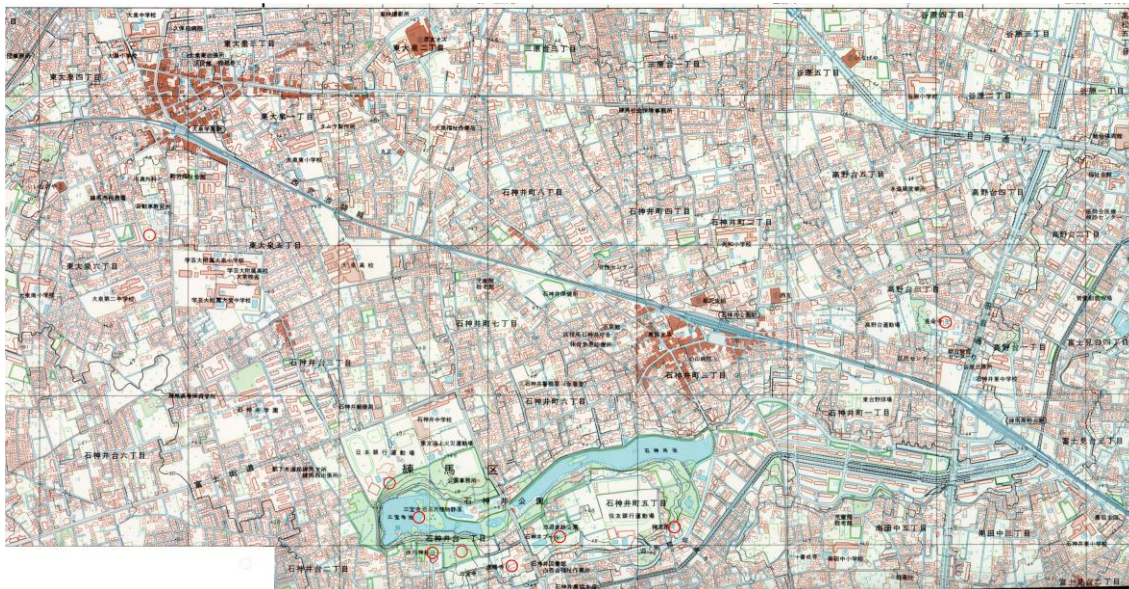
1915年に武蔵野鉄道（現：西武池袋線）が開業し、石神井駅（現：石神井公園駅）が開業したことを記念して、1920年に建てられた石碑。

・長命寺

後北条氏の一族である増島重明が慶長18年（1613年）に高野山にならって茅堂を建てて弘法大師像を安置したのに始まり、弟の重俊が大師堂などの堂宇を建立した。

寺の規模は高野山奥の院にならったもので、「東高野山」とか「新高野山」とも呼ばれ、徳川将軍家の尊崇を受けるとともに、霊場として江戸庶民の信仰を集めた。奥の院は現在でもそのころの面影をよく残している。また境内には十王・十三仏の石仏群など見るべきものも多いという。

ルートマップ



+ * * * + オフィス 地図豆 店主 yamaoka mitsuharu + * * * +